

景気回復を感じつつも慎重な消費マインド

熊本の今後半年間の消費予報【要約】

消費予報の指標としている「景気」、「暮らし向き」、「収入」、「支出意欲」の今後半年間の“見通し”をみると、「景気」見通しDIは、前回(平成18年11月実施)を4.0ポイント下回ったものの+19.0と依然として高い水準であった。「暮らし向き」見通しDIは、前回は3.0ポイント下回る27.0、「収入」見通しDIは、前回は0.1ポイント上回る7.9であった。また、「支出意欲」見通しDIでは前回は0.4ポイント下回る27.0となり、いずれもほぼ横ばいといえる水準であった。

今回の調査では、「収入」が前回をわずかに上回っていたものの、「景気」、「暮らし向き」、「支出意欲」の見通しDIはいずれも前回は下回っており、住民税の負担増や社会保障への不安などから財布の紐を引き締める慎重な消費マインドがうかがえる結果となった。

【調査概要】

対象：熊本市在住の20代から60代

の女性モニター500人

有効回答数：458人

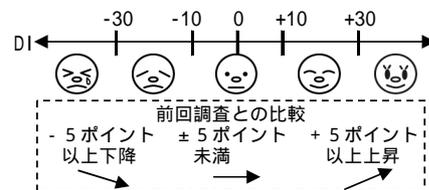
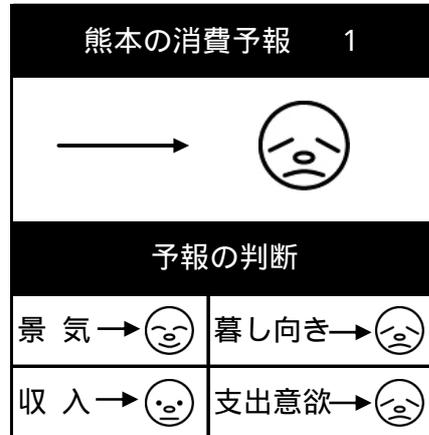
調査時期：平成19年5月17日

～6月6日

調査方法：郵送法

回答者の属性

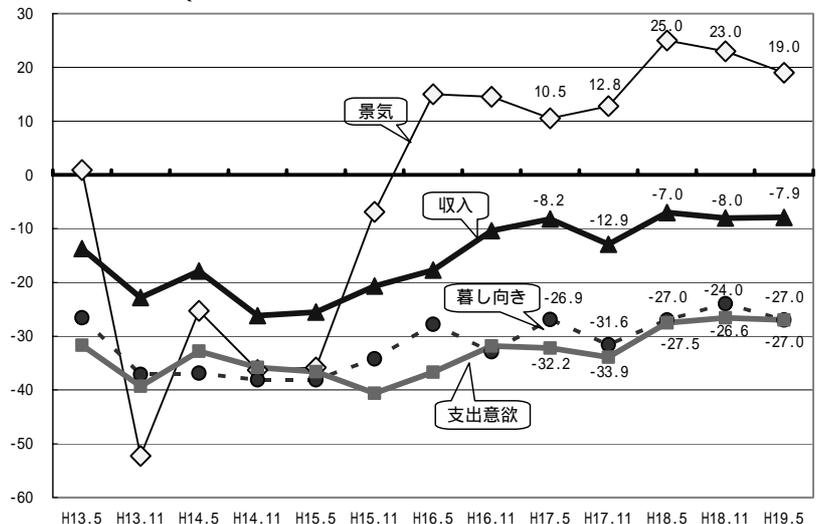
年齢	実数	%
20代	63	13.8
30代	109	23.8
40代	93	20.3
50代	101	22.1
60代	92	20.1
合計	458	100.0



1 消費予報の読み方

本調査では、消費マインドに影響する『景気』と『暮らし向き』と『支出意欲(支出の引き締め)』に対する意識、実際の消費に関わる『収入』の増減の、4つの項目について今後半年の見通しを質問している。数値(DI)は、「良くなる(増えそう、緩める)」と回答した人の割合(%)から、「悪くなる(減りそう、引き締める)」と回答した人の割合(%)を引いて算出した。4つの項目と『支出』から総合的に判断し、熊本の消費の予報を試みた。

(今後の見通しDIの推移)



景気の見通し

今後半年間の景気見通しD Iは、前回は4.0ポイント下回ったものの+19.0と依然として高い水準を維持している。年代別にみると、20代は、前回は15.6ポイント上回る+39.7となっており、調査開始以来最も高い水準となった。一方、30～60代では、いずれも前回は下回る結果となった。

【景気の見通しD I】

D I=(「良くなる」+「まあ良くなる」) - (「悪くなる」+「やや悪くなる」)

→ 	今回		前回 (H18.11)	前々回 (H18.5)
	(H19.5)	前回比		
全体	19.0	-4.0	23.0	25.0
20代	39.7	15.6	24.1	20.3
30代	13.8	-2.0	15.8	28.8
40代	15.0	-7.0	22.0	19.3
50代	10.9	-13.8	24.7	24.0
60代	23.9	-5.1	29.0	29.3

暮らし向きの見通し

暮らし向きの見通しD Iは、前回は3.0ポイント下回り 27.0となった。年代別にみると、20代では2.7ポイント上回る 4.8となっており上昇傾向のようである。一方、40～60代ではそれぞれ前回は下回っており、「将来、年金が増えることはなく医療費がかかるので苦しくなりそう」「税金や教育費が増えそう」などの意見があった。

【暮らし向きの見通しD I】

D I=(「良くなる」+「まあ良くなる」) - (「悪くなる」+「やや悪くなる」)

→ 	今回		前回 (H18.11)	前々回 (H18.5)
	(H19.5)	前回比		
全体	27.0	-3.0	24.0	27.0
20代	4.8	2.7	7.5	16.6
30代	20.2	5.5	25.7	19.8
40代	37.6	-6.5	31.1	38.0
50代	36.6	-12.1	24.5	32.0
60代	29.3	-0.6	28.7	26.5

収入の見通し

今後半年間の収入見通しD Iは、前回とほぼ変わらず0.1ポイント上回る 7.9であった。内訳をみると、30～60代がそれぞれ前回は下回り、特に40代は7.5ポイント下回る 8.6であった。一方、20代だけは前回は20.6ポイントも上回る+14.3となっている。

【収入の見通しD I】

D I=「増えそう」 - 「減りそう」

→ 	今回		前回 (H18.11)	前々回 (H18.5)
	(H19.5)	前回比		
全体	7.9	0.1	8.0	7.0
20代	14.3	20.6	6.3	11.7
30代	2.7	-1.3	4.0	6.3
40代	8.6	-7.5	1.1	1.2
50代	18.8	-2.8	16.0	16.9
60代	22.8	-1.7	21.1	14.1

支出意欲（支出の引き締め具合）

今後支出を緩めるかどうかをみる支出意欲D Iは、前回は0.4ポイント下回る 27.0であった。年代別にみると、20代は、34.8と各年代の中で最も低く、意外にも財布の紐が固いようである。他の年代でも買い物に対する堅実で慎重な姿勢がうかがえ、全体的に引き締める傾向は続いている。

【支出意欲D I】

D I=(「緩める」+「少し緩める」) - (「少し引き締める」+「引き締める」)

→ 	今回		前回 (H18.11)	前々回 (H18.5)
	(H19.5)	前回比		
全体	27.0	-0.4	26.6	27.5
20代	34.8	1.5	36.3	18.3
30代	27.5	-2.7	24.8	22.5
40代	29.3	7.0	36.3	42.1
50代	27.7	-6.2	21.5	33.7
60代	17.4	-1.4	16.0	19.9